

登録コード	E2552900	開講年度	2026			
授業科目	やきもの演習				担当教員	田中 隆史
英文授業名	Ceramics				副担当	猪瀬 昌延
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	対象学生
講義室	教育N109		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				制作を通じて、美術工芸に対する深い理解を得る事ができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				身近にある工芸を認識し、実習を通して工芸の成り立ちを深く理解するとともに、その指導ができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	本授業では、やきものによる器の制作を通して、陶芸の基礎的な技術と考え方を学ぶ。 やきものは日常生活に深く関わる工芸であり、使いやすさや目的に即した機能と、毎日の暮らしに欠か せない造形としての魅力を併せ持つ表現である。 本授業では、器を生活の中で実際に使われる存在として捉え、形態や質感、扱いやすさについて考えな がら制作を行う。あわせて、土・釉薬・焼成といった素材や工程に関する基礎的な知識と理解を深め、 素材の特性を生かした表現方法を探る。制作を通して、現代の生活におけるやきもののあり方を考察す る。					
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、道具説明 第2回：陶芸実習1（手捻りデモストレーション・アイデアスケッチ） 第3回：陶芸実習2（手捻り制作） 第4回：陶芸実習3（削り制作） 第5回：陶芸実習4（素焼き窯つめ・絵付け用アイデアスケッチ） 第6回：陶芸実習5（下絵付け） 第7回：陶芸実習6（釉掛け） 第8回：陶芸実習7（本焼き窯つめ） 第9回：陶芸実習8（板作り制作） 第10回：陶芸実習9（板作り制作） 第11回：陶芸実習10（素焼き窯つめ） 第12回：陶芸実習11（絵付け、釉掛け） 第13回：陶芸実習12（本焼き窯つめ） 第14回：陶芸実習13（窯だし）作品講評「授業アンケート」					
(6)成績評価の方法	提出作品 陶を素材とした造形課題（手びねり、削り、などの制作工程を理解しての造形、絵付け、釉薬を施し本 焼き焼成後の完成度70%）で評価します。 やきもの研究に必要な資料の準備、制作態度、（遅刻・早退、制作に対する集中力30%）で評価しま す。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	授業で示した課題の要件を概ね満たしていれば「水準にある」、課題の要件をすべて満たしていれば「 やや上のある」すべての要件に加え工夫があれば「かなり上にある」すべての要件に加え工夫をこらし 高度に完成していれば「卓越している」 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	事前学習（予習）は、当日の実習で扱う素材の特性や基本的な扱い方を文献や教材で調べ、下書きや制 作構想にまとめる。 事後学習（復習）は、制作した作品の振り返りや改善点をまとめ、技法や表現方法を理解し、次回実習 や授業での活用を検討する。 自主学習時間の目安、単位あたり45時間のうち、授業時間を除いた時間（約22.5時間）を事前・事後学 習に充てる。 1回あたりの目安：事前0.5～1時間、事後1時間程度。					
(9)履修上の注意	教材費は別途かかります。 実習の内容は進捗状況により変わります。 本授業は実習科目であり、単位修得のためには、授業時間内の学修に加えて、予習・復習等の授業時間 外学修を行うことが必要である。 授業時間外学修も授業の一部として位置づけられており、これを前提に履修すること。 業時間外学修として、各回の実習で扱う素材や技法に関する事前調査、制作構想や下書きの作成、授業 後の制作内容の振り返りや記録整理、技法や表現に関する復習等を行うこと。					

(10)質問，相談への対応及び連絡先	授業時に対応 連絡先：sikata70@mac.com
【教科書】	使用しない
【参考文献】	授業中に紹介する